会　議　録

会議名	令和３年度みよし市障がい者自立支援協議会第１回全体会
日　時	令和３年７月２１日（水）午前 10 時から正午まで
場　所	ふれあい交流館１０２会議室
出席者（敬称略）	別紙参照
欠席者（敬称略）	ひがしやまスマイルハウス、みよし市身体障害者福祉協議会
傍聴の有無	３名

発　言　要　旨	
第１　あいさつ	
今年度から障がい者自立支援協議会会長になった。荷が重く感じている。ここに集まりの皆様同様、みよし市の福祉を考える構成員の一員である。業務多忙の中、今後も集まる機会があるが、よろしくお願いします。（柴田会長）	
第２　協議事項	
１　令和２年度のみよし市障がい者自立支援協議会について	
(1-1)運営会議の事業報告について、事務局福祉課立石から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
地域アドバイザー 阪田副会長	協議会というのは、いろいろな意見を出し合って協議していく性質である。年々地域課題が変わってきている。構成員はそれに合わせて変わっていく。部会長はこの場に入って、議論の中心でやりとりする形が、自立支援協議会の性質上いいかと思う。愛知県の自立支援協議会も部会があるが、構成員に入っている。一緒に入って議論してもらえる体制がいいと思う。
会長 柴田氏	福祉課から説明あったが、みなさん部会長を構成員に入れるということは、承認でいいか。
構成員	はい。
会長 柴田氏	要綱の改正を含めて準備をすすめてほしい。
(1-2)人材育成検討チームの事業報告について、事務局『しおみの丘』秋田氏から説明。	
(1-3)暮らしの場検討チームの事業報告について、事務局『相談支援事業所わらび』深田氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
手をつなぐ親の会 岸野氏	住まいの場の確保等とあるが、「等」というのは他にどんなことを考えているのか。
事務局暮らしの場 検討チーム 深田氏	生活に関する、住居を取り巻くいろいろな環境について協議する場等。
手をつなぐ親の会 岸野氏	親としては移動支援が気になる。日々のことを支える支援のところも含めて考えていただけるとありがたい。

事務局暮らしの場 検討チーム 深田氏	はい。
わらび 熊谷氏	暮らしの場で話し合ったとあるが、いくつか教えてほしい。場の確保は大事だが、一番大事なのは本人がどうしたいかであると思う。本人が選択できるように、どのように検討していくのか。拠点の体験の場とつながっていくのか。 また、地域支援拠点の浸透はどこがポイントと考えているか、人材育成の担当に聞きたい。
人材育成検討チーム 秋田氏	具体的なところはこれから。現在、言葉自体を知らない人も多いので、まずは理念のところが浸透すればいいと考えている。

⑵児童部会の事業報告について、事務局『相談支援 OK サポート』戸村氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
豊田市こども 発達センター 神谷氏	健診後、のびのびからふたば、よつばというみよし市の療育支援体制がある。ふたばを利用する子どもが減っているという現状があるが、発達支援の必要のある子へのシステムは機能しているのか。 こどもの年齢によって、利用機関が違う。パイプの役割はできているか。 また、それぞれの機関が目的に沿って機能しているのか。のびのびの機能やふたばの機能が関係機関に周知されているのか。 ふたばについては、出席率、継続率はどうか。母にとって、利用しやすいものになっているのか調べていく必要がある。ふたばの保護者にアンケートをとり、母のニーズにあっているのか調べるとよい。 ふたばもよつばも児童部会も活発に動いている。よつばの利用児数は増えている。みよし市の児童に関するシステムは充実してきている。児童発達センターを作っていく計画、思いはあるのか。きちんとしたものを、みよし市として作っていったらよいかと思う。その時期が来たかと思う。みよし市として、児童部会としてどう思うのか。
みよし市役所 福祉部 深津氏	みよし市としてというお答えはこの場ではできないし、するべきではないと思っている。 今のところセンターの計画は立っていない。本市にも障害者福祉計画がある。具体的に建てるとか、建てていかなくてはいけないとは考えていない。必然的に必要であればできていく。ハード面は難しいところがあるので、違う方法でできる仕組みができればいい。児童部会や、全体会で皆さんのお力をおかりしながら考えていく。
豊田市こども 発達センター 神谷氏	みよし市にあったものを作っていくという提案ができたらいいと改めて思った。
三好特支援学校 井上氏	外国籍の人が増えてきている。コミュニケーションをどのようにとっていったらよいか難しい。一緒に考えていけるとありがたい。

学校教育課 菅田氏	ヒヤリングに参加した。つながりシートをうまく活用し、進んでいくように、学校の意見吸い上げて受け止めながらよりよいものにしていきたい。学校教育課としては、個別教育支援計画に上手に移行していけたらと思っている。上手な活用をはかられるようにと考えている。
⑶就労支援部会の事業報告について、事務局『はたらくサポートセンター』山口氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
一般社団法人 みよしはたらく協議会 鶴田氏	生活する場と就労がつながっていかなくてはいけない。それが地域でないといけないと思っている。地域の中で障がいのある人と出会う機会が少ないのではないか。地域の人たちと障がいのある人たちが出会いながら、地域の人を変えていかないと、なんでも行政がやることになりがちなのではと思っている。
柴田会長	地域を変えていかなくてはという話かと思う。
西三河北部障害者就業・生活支援センター 西村氏	企業へのアピールをすごくしている。 動画を作ったり、雇用セミナーで話をしたりしたことの結果が数字にでている。法定雇用率の達成割合ものびている。数字があがっているのは、地道な取り組みが企業に理解されているのではと思う。見えにくいところでの取り組みが数字にでている。職場体験の実態調査は障がいのある方の経験を増やしていこうという取り組み。非常に大切だと思う。
⑷精神保健福祉部会の事業報告について、事務局『はたらくサポートセンター』兼重氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
愛知県衣浦東部 保健所 中根氏	保健所としても一緒に考えていければよい。みなさんらしく過ごせるように相談しながら進めていければよい。
精神障がい者家族会 畠中氏	精神、ひきこもりの人が集まれる場所ができ、大変喜んでいる。家にいたらダメで、まず出ることが大事ではあるが、その機会も、場所もない。以前は希望があったが、今はもうない。家からでることのできなかった子５人が、現在日進のゆったり工房に通っている。希望がなかったらできなかった。人は変わることができる。今回も精神障がいがあったり、ひきこもりの子がいる親は、集まることのできる場所ができたことを喜んでいる。ありがとうございます。
⑸医療的ケアさぽーと部会の事業報告について、事務局『キッズラバルカ』川北氏から説明。	
構成員名	意見（質問・回答）等
特定非営利活動法人 いきもの語り 生活介護ルアナ水井氏	コロナ渦で難しいとは思うが、その中でできることを一緒に考えていけたらよい。
みよし市民病院 阿部氏	医療的ケア児の受け入れ。医師、看護師と相談して、できるだけ協力して体制を作っていけたらと思っている。

豊田特別支援学校 大須賀氏	卒業後の生活の場について。利用日数が限られてしまうところもあり、その場合は市外の施設を探すことが起こりうる。施設を増やす、人数を増やすことが難しい場合、他の手立てがないかを考え、なんらかの形でニーズに答えていくことになる。 在学中も登下校時に家庭での送迎ができない場合は、看護師が一緒でないと、介護タクシーの利用は難しい。体調不良であれば、学校は受け入れられないが、家庭の方が迎えに来るまで、学校で待たなくてはならない。できること、できないことを整理しながら、状況に対応できるようなシステムづくりをしていく必要があると思う。課題を共有することがスタートか。
地域アドバイザー 阪田副会長	自立支援協議会ができて１２、３年たつ。最初からいる人は少なく、メンバーは変わっている。障がいのある方の地域課題はここ発信であることが多い。事業もいくつか増えた。やってきた経過を見直して、全体共有していく作業が大切。人が変わることはいいこと。地域の在り方も変わり、多様化してきている。やることが増えているので大変だが、全体を共有していく作業をしていくと、いろいろとつながり、発想も増える。それが大事かと思っている。枠を超えた発言がでてくるといいかと思う。楽しく生きていこうと思うと、みんなで問題を共有していかないといけない。

２　地域生活支援拠点等の整備について

構成員名	意見（質問・回答）等
しおみの丘 松平氏	なかなかつけづらい。新しい構成員の強い味方が３人増えた。いかに広めて、皆さんに意識してもらうことが大事。参加している人たちだけが考えていた時代もあったが、それを職場で広めていかなくてはいけない。広めることが大事かと思う。それぞれの知識、知恵をもらって、５年、１０年後にはより良いみよしになるのではと思う。
手をつなぐ親の会 岸野氏	昨年度末つけて、協議した。内容が難しい。素人ではよくわからない。形にして、診断できると総括しやすいので続けてほしい。
会長 柴田氏	診断表がつけづらいという意見。
愛知県豊田加茂福祉相談センター	地域生活拠点の５つの柱。それぞれ評価の指標。指標を定めて、効果、検証する必要がある。利用者の思いも踏まえたうえで検証を。
わらび 熊谷氏	これをつけて、今どうなのかというお話があると、次につける時がつけやすい。
地域アドバイザー 阪田副会長	地域で安心して生活するために指標づくりをしなくてはいけないと言われている。各市町村で指標はバラバラである。それぞれ文化が違ので、市町村で考えなくてはいけない。 つけづらい、内容が難しいことは課題。後日説明する機会を持ってもよいかとも思う。根拠を細かに説明していかないといけないかと思う。事務局で検討させていただいて、伝えられればと思う。

３　その他
次回の自立支援協議会全体会は１１月１７日（水）１０時から。詳細については後日。

ー閉会ー

作成	福祉課	児島　裕子	R3.7.22